

百貨店

石川で

繊維学ぶ

百貨店の共同仕入れグループ「A・D・O」の国産アパレル産地研修
写真Ⅱが7日、石川県内で始まり、
東京や京都などにある百貨店の婦人服や紳士服の売り場担当者ら12人が
服の生産現場を見学し、業界の近況
について理解を深めた。

一行は繊維リソースいしかわ（金沢市）で石川産地の状況について説明を受けた後、丸井織物（石川県中能登町）を訪問した。工場内で原糸が納入されてから生地として織り上がるまでの工程を視察し、織機の違いや高機能素材の織り方などについて質問した。

工場見学は初めてという名鉄百貨店婦人子供営業部の大鐘孝一さんは、国産品に対する客の関心が高ま

服の生産工程見学「売り場で生かす」

っていると、「売り場での提案方法やお客さまへの説明の参考にした」と話した。

北陸産地は国内の合繊生産の8割を担っており、とりわけ石川はファッション用途の素材を多く生産している。研修は店頭に並ぶ服が仕上がるまでの工程を知ってもらう、販売業務に活用してもらうため、A・D・Oから委託を受けたファッション産業人材育成機構（東京）が企画した。

